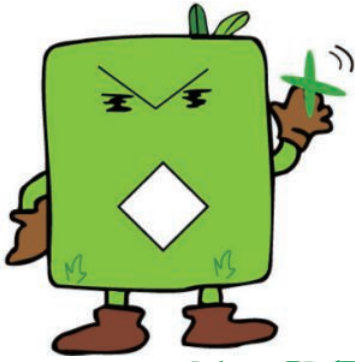




いすみスタイル.Com
isumi-style



地球環境基金助成事業 編

多様性豊かな生態系をもたらす夷隅川流域



図版：いすみ夢鯨の会作成の地図を加工しました。

1. 夷隅川の恵み、豊かで美しい里山・里海

私たちが暮らす地域を流れる夷隅川は、千葉県最大の流域面積を持ち、稲作など川の水を利用した農業が盛んです。また、全国で実施された「河川水辺の国勢調査」では生息する魚介類の種類の多さで、全国第2位にランクされているそうです。また、いすみ市の沖合にいすみ市と同じくらいの広さがある「器械根」と呼ばれる磯根（岩礁地帯）があります。太東埼（たいとうざき）の沖合約20キロまで続く、水深13m～40mくらいの山あり谷ありの地形です。その海底には海藻が生い茂り、海中林を作っています。この中に、サザエ、アワビ、ウマズラ、イワシ、アジ、ヒラマサ、イセエビ、タコなどたくさんの魚介類が生息しています。そして、いすみ市沖から銚子沖にかけて、暖流の黒潮と寒流の親潮が出会います。このため、いすみ市では暖かい地域に住む生き物と寒い地域に住む生き物、両方が暮しています。

2. 生物の多様性

このような豊かで美しい自然に育まれ、いすみ市では千葉県で最も生息する生物の種類が多いそうです。

天然記念物で絶滅危惧種のミヤコタナゴをはじめ、トウキョウサンショウウオなど珍しい生き物が暮しています。また、北からはコハクチョウが越冬に、南からはアカウミガメが卵を産みにやってきます。

3. 豊かな物産

自然が豊かで生き物の種類が多いということは、農業や漁業が盛んということでもあります。

夷隅川と器械根から得られる自然の恵みが、「いすみブランド」に代表される農漁業から得られる物産を生み出し、私たちの暮らしを豊かにしています。

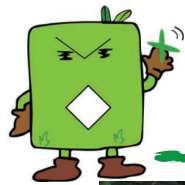
4. 自然と生き物、私たちの生活を守るために

しかし、この自然の恵みを得るためには、この環境を壊さず、守っていくための工夫と活動が必要になってきていると言われています。

環境を壊す要素として例えば、

- ・流木・流竹、廃棄物（ごみ）：河川、海を汚し、そこで暮らす生き物たちの生活環境を壊します。
 - ・生活排水：下水道、浄化槽を通さない生活排水は河川、海を汚染します。
 - ・農薬の空中散布：必要以上に生物を殺します。
- などが指摘されています。

私たち NPO 法人いすみライフスタイル研究所では、地球環境基金の助成を受けて、平成28年度より夷隅川流域の多様性豊かな生態系と環境の保全、そして、有機農業の促進をお手伝いする活動に取り組んでいます。



「第5回生物の多様性を育む農業国際会議 in



さらに観客同士の間に「共感」が生まれる日本独自の表現・文化です。

夷隅小学校5年生が、総合学習での体験と学習の成果をまとめ、得られた共感をほかの子どもたちにも伝えていこうと紙芝居の制作に取り組みました。タイトルは「たんぼでもぐもぐ」。食物連鎖と田んぼの生物多様性をテーマにしたお話です。紙芝居作家であるキム・ファンさん（京都在住）と紙芝居の出版社である童心社の協力を得て完成させました。

生き物調査交流会の全行程が終わった後、会を締めくくらかたで、キム・ファンさんの手により上演されました。

いすみ市では生物多様性に基づいたまちづくりと有機稲作に取り組んでおり、2017年から全国ではじめて、学校給食に使用のお米の全てを有機米で提供するなど有機農業への取り組みが盛んになってきています。

そして、2018年7月20日（金）～22日（日）の3日間。アジア各国で生物多様性の保全・再生の視点で取り組まれている有機農業や環境保全型農業、それらを基盤としたまちの活性化を議論するために、いすみ市で「第5回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA = International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture）2018」が開催されました。

私たちNPO法人いすみライフスタイル研究所は、開催地専門委員会の中核団体として、この国際会議を地域で盛り上げ、そのことによって、生物多様性や環境保全型農業の大切さを市民の方々に知っていただくために、ここでご紹介する活動を実施しました。

第13回日韓田んぼの生きもの調査交流会



2006年の第1回の開催から今年で13回目を迎える日韓田んぼの生きもの調査交流会は、田んぼとその周辺域に生息する生物の調査研究活動を通して、生物の多様性を育む農業のあり方を

考えることを目的に、日本と韓国の生産者、消費者、湿地活動研究者、地域住民、子どもたちが調査・交流を重ねてきた催しです。

今回の日韓田んぼの生きもの調査交流会では、これまでも講師として関わったことのある林鷹央さんと船橋玲二さんによる調査と、地元千町小学校・夷隅小学校の児童と一緒に調査を行いました。

7月20日（金）当日は、猛暑となり、熱中症の心配もあったため、子供たちは木陰のある水路での生き物調査を行いました。調査の後には、今回の調査交流会のために夷隅小5年生の児童と紙芝居作家キム・ファンさんが共同制作した紙芝居「たんぼでもぐもぐ」の上演会が行われました。



紙芝居「たんぼでもぐもぐ」の制作と上演会

紙芝居は、演じ手と観客とが「一緒に楽しむ」ことができ、

いすみの生物多様性を育む農業現地見学



7月20日（金）、いすみ市の有機水田をはじめとする地域循環型農業の現場を見学しました。今回、見学した「みねやの里」や「伊大知（いおち）農場」の有機水田は、有機に転換して3年目、4年目の田んぼです。



また、いすみ市の有機米作りでは、肥料はなるべく農場内、地域の中で、という循環型農業を進めています。その一環で2018年につくられた土着菌完熟堆肥センターの見学も行いました。最後に、いすみのオー

ガニックライフの人気スポット、ブラウンズフィールドのカフェを訪れて見学のまとめを行いました。

エクスカーション

7月20日（金）には、このほか、いすみ地域の生物多様性と有機農業・循環型農業を体験していただくための3つのエクスカーション（見学会）を行いました。

エクスカーションⅠ：いすみ鉄道で行く房総の里山



このコースでは、いすみの里山で育まれている歴史、生活、そして、里の生物多様性を見て回りました。



里山を走るいすみ鉄道への乗車からはじまり、江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎の代表作「神奈川沖浪裏」

いすみ」での活動

に影響を与えたとされる彫刻師・武志伊八郎信由の作品「波に宝珠」が飾られている行元寺、循環型酪農を実践している高秀牧場、水田と谷津に挟まれた場所に作られ、豊かな自然の中で生き物たちと触れ合うことができるいすみ環境と文化の里センターを回りました。

エクスカッションⅡ：いすみの里海と器械根クルーズ



このコースでは、まず、いすみ地域の海の生物多様性を育む岩礁地帯「器械根」が広がる里海のクルーズを楽しみました。その後、太東崎に行き九十九里浜から太平洋、いすみの里山、里海をまで一望。そして、太東崎の麓（ふもと）に広がる太東海浜植物群落（砂丘背後にクロマツや常緑広葉樹からなる景観が海浜固有の特殊な生態系を持つと1920年に日本で最初の国指定天然記念物に指定）を歩きました。



エクスカッションⅢ：いすみのオーガニックライフ



このコースでは、いすみでオーガニックな暮らしを身近に感じることができる場所を回りました。いすみで作られた特別栽培米を使って日本酒や自然農法米を100%使用した自然醸造酒を作っている木戸泉酒造。食を中心として自然と繋がった暮らしをしたいと考える人達が集う場所として、カフェ・宿泊・イベントなどを提供しているブラウズフィールド。古民家を活用し、なるべく昔の生活様式を取り入れた環境に優しい生活を実践する自然農塾・自然栽培農園風の谷ファームを回りました。



映画「ホッパーレース」上映会

7月21日（土）国際会議開催中に、私達に身近な稲作を通して、農薬や化学肥料を大量に投入する現代農業に疑問を投げかけ、生物の多様性の大切さを訴える映画「ホッパーレース」を上映しました。

今アジアの稲作地帯で稲を守ろうと農薬を大量散布する農民と、抵抗性稲品種の開発に



そしむ科学者の努力を戻目に、次々と環境に適応する稲ウンカ。この両者を巡るレースの行方を探ります。

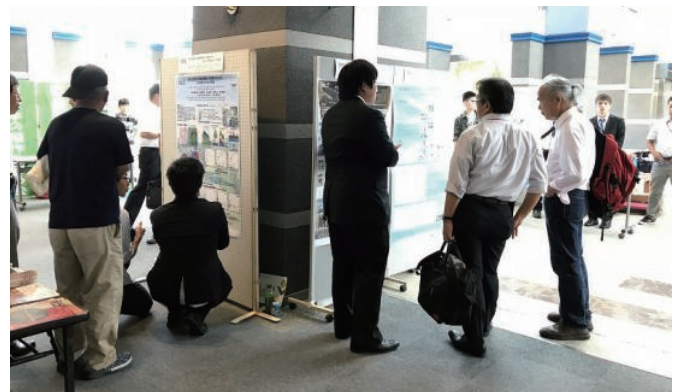
当日は、この映画を監修された田坂興亜さんが今回の国際会議に参加されていたため、1回目の上映の前にこの映画が訴えること、概要についてコメントをいただきました。

研究ポスター発表・展示

7月21日（土）、22日（日）に、いすみ地域をはじめ千葉県で行われている生物多様性の研究成果を発表する展示会を行いました。

当日は研究者も会場の自分のポスターの前にいて、研究に興味を示した方々の質問に答えていました。

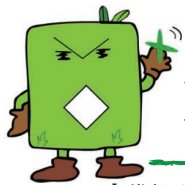
発表されたのは、次の6つの研究です。



1. 「多様な生物を育む農業水路 - 霞ヶ浦周辺の事例紹介 -」（諸澤崇裕 土浦の自然を守る会）
2. 「谷津に見られる伝統的な水辺の構造から学ぶこと - 生物の多様性を育む水路に関する一考察 -」（志賀慶介、手塚幸夫 房総野生生物研究所）
3. 「絶滅危惧種カワバタモロコを用いた生息域外保全と環境学習との取組」（鈴木規慈 三重大学大学院生物資源学研究科）
4. 「谷戸田を囲む水源涵養林から供給される水とフルボ酸ミネラルの評価」（海老原由樹 千葉工業大学大学院ほか、内藤瑞季、白川尚樹、竹内舞子）
5. 「里山ー里海との資源循環を紡ぐ土壌圏マイクロバイオーム形成のための海藻資材の活用」（福嶋直樹 千葉工業大学大学院ほか、内藤信康、矢沢勇樹、手塚幸夫）
6. 「夷隅周辺の川エビたち - 夷隅周辺の河川における淡水エビ類の分布と生態 -」（西友夫 千葉県立大原高等学校生物部）



7月22日（日）国際会議の閉会セレモニーで紙芝居「たんぼでもぐもぐ」を披露する夷隅小5年の児童とキム・ファンさん。



環境保全、勉強会、学習支援などの活動

夷隅川リバークリーン

いすみ地域の中心を流れていながら、川に降りる場所が限られているため釣り人以外の住民には近づきにくい夷隅川。地域にとってとても大事な川なのですが、意外に手入れがされていません。



そこで、いすみパドルクラブさんの協力を得て、SUP（スタンド・アップ・パドル）を使い、毎月夷隅川のゴミ掃除をしています。毎回、スーパーや農業資材のビニール袋、発泡スチロール、プラスチック用品、空缶、粗大ゴミなどを拾っています。



親子連れの参加も多く、子供たちも楽しみながらゴミ拾いをしていています。



雨がたくさん降って川が増水すると流域からゴミが大量に流れて河岸に引っかかるため、一度掃除をすれば終わりというわけではなく、やり続けなければいけないのですが、やめてしまうととてもないことになります。

月々の夷隅川リバークリーンに参加して下さる仲間を募集しています。参加、お問い合わせは、いすみパドルクラブ（0470-62-5073）、もしくは、当NPOまでご連絡ください。

有害鳥獣勉強会

イノシシやキョン、アライグマなどの有害鳥獣の被害も年々増えてきています。この被害によって耕作放棄地が増え、里山が荒れ、流竹木などのゴミが増えて河川や里海を汚すという悪循環が指摘されています。この循環を断ち切るために、有害鳥獣対策の勉強会を行っています。



この他にも、夷隅川流域の環境を守っていくには、農業に寄り添って暮らしていくライフスタイルを考え出し、実践することが大切ではないかという視点から、葛谷栄一さん（農的デザイン研究所代表）をお呼びしての「農的ライフスタイル」勉強会、ビーチイベントでのビーチクリーンなどを実施してきました。



まずは最も被害の大きいイノシシからということで、手塚幸夫さん（房総野生生物研究所代表）にご協力いただき、イノシシ対策の専門家・仲谷淳さん（中央農業総合研究センター）に来ていただいて、集落単位での対策勉強会を、いすみ市の峰谷・新田野・造式・大舟谷・矢指戸・大井・貝須賀集落、御宿町の実谷・七本集落で行ってきました。

総合学習への協力



地域の環境を守るためには、大人だけでなく子供たちに環境の大切さを知ってもらい、日ごろから環境を汚さない生活を送ることを心がけてもらうことが大切



だという考えから、地域の小中学校の総合学習にも積極的に協力しています。

これまで、岬中学校のビーチクリーンや環境をテーマにした卒業制作、夷隅小学校の総合学習などに協力し

てきました。

この他にも、夷隅川流域の環境を守っていくには、農業に寄り添って暮らしていくライフスタイルを考え出し、実践することが大切ではないかという視点から、葛谷栄一さん（農的デザイン研究所代表）をお呼びしての「農的ライフスタイル」勉強会、ビーチイベントでのビーチクリーンなどを実施してきました。



ニュースレター「isumi-style.com」2018 臨時増刊号 地球環境基金助成事業編

発行日：2018年11月22日

発行者：NPO法人いすみライフスタイル研究所
〒299-4616 千葉県いすみ市岬町長者475
Tel：0470-62-6730 Fax：0470-62-6731
E-mail：isumi-style@bz03.plala.or.jp

発行人：高原和江
執筆・編集・DTP：江崎 亮

※右：このパンフレットは平成30年度地球環境基金助成金の助成を受けて作成しました。
※左：いすみ研は、環境保全活動をはじめ、国連で採択された「SGDs（Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標-）」を視野に入れたまちづくりに取り組んでいます。

